

令和6年度第2回千葉県スポーツ推進審議会 議事録

開催日時 令和7年3月10日（月）
午後2時から午後4時まで
開催場所 ホテルプラザ菜の花 4階 楨

1 出席者（敬称略）

＜委員＞（50音順）

越川 均、佐藤 博紀、寺山 由美、花岡 伸和、藤井 和彦、森島 由加

＜オブザーバー＞

大目 智志、都丸 輝信、小柴 真岐

＜事務局職員＞

所 属			職 名	氏 名
環境生活部 スポーツ・文化局			局長	板倉 由妃子
	生涯スポーツ振興課		課長	小林 雄一
	競技スポーツ振興課		課長	岩埜 直史
教育庁教育振興部	保健体育課		課長	志村 修一
環境生活部 スポーツ・文化局	生涯スポーツ振興課		副課長	石田 雅博
	生涯スポーツ振興課	企画調整班	班長	近藤 なつみ
	生涯スポーツ振興課	企画調整班	副主査	宮澤 涼
	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	室長	齊藤 真
	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	副主査	佐藤 隆徳
	生涯スポーツ振興課	ちばアクアラインマラソン準備室	主幹	進藤 周介
	競技スポーツ振興課		副課長	木村 論道
	競技スポーツ振興課	施設・調整班	班長	鴫田 伸一
	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	班長	関 秀彰
健康福祉部	健康づくり支援課	健康ちば推進班	主事	青木 孝憲
商工労働部	観光政策課	新たな観光推進室	副主査	高梨 裕乃
教育庁企画管理部	教育政策課	政策室	主査	菰田 泰孝
教育庁教育振興部	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	社会教育主事	佐久間 知弥
	特別支援教育課	教育課程指導室	指導主事	小西 孝政
	保健体育課		副課長	柳橋 宏昭
	保健体育課	給食班	主事	大倉 里圭

2 議題

(1) 報告事項

- ①「第78回国民スポーツ大会」及び「第23回全国障害者スポーツ大会」での
本県選手団の活躍について・・・・・・・・・・資料2-1、資料2-2
- ②「ちばアクアラインマラソン2024」の開催結果について・・・・・・・・・・資料3
- ③令和6年度各種表彰について・・・・・・・・・・資料4
- ④令和6年度「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の結果に
ついて・・・・・・・・・・資料5

(2) 協議事項

- ①令和7年度スポーツ団体に対する補助金の交付について・・・・・・・・・・資料6
- ②第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和6年度点検・評価について
・・・・・・・・・・資料7-1、資料7-2

【配布資料】

- ・ 資料1 スポーツ基本法、千葉県行政組織条例
- ・ 資料2-1 第78回国民スポーツ大会チームちばの活躍
- ・ 資料2-2 第23回全国障害者スポーツ大会本県選手団の活躍
- ・ 資料3 「ちばアクアラインマラソン2024」の開催結果について
- ・ 資料4 令和6年度各種表彰について
- ・ 資料5 令和6年度 県民の運動・スポーツに関するアンケート調査
- ・ 資料6 令和7年度スポーツ団体に対する補助金の交付について
- ・ 資料7-1 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和6年度点検・
評価報告書（暫定版）
- ・ 資料7-2 令和7年度主な体育・スポーツ関連事業について

3 議事録

【事務局】

それではただいまより、令和6年度第2回千葉県スポーツ推進審議会を開会いたします。

なお本審議会の委員総数は10名のところ、本日の出席者が6名ということになります。資料1にございます、千葉県行政組織条例の第32条第2項に定める会議の開催について、委員の半数以上の出席が必要であるという成立要件を充足しておりますので、成立していることを御報告させていただきます。

初めに、本日ご出席の千葉県スポーツ推進審議会委員の皆様を御紹介いたします。

越川 均 委員です。

佐藤 博紀 委員です。

寺山 由美 委員です。

花岡 伸和 委員です。

藤井 和彦 委員です。

森島 由加 委員です。

続きまして、オブザーバーの皆様を御紹介いたします。

千葉県小中学校体育連盟 大目 会長です。

千葉県高等学校体育連盟 都丸 会長です。

千葉県特別支援学校体育連盟 小柴 会長です。

皆様本日はよろしくお願いいたします。続きまして、環境生活部スポーツ文化局の板倉局長から御挨拶を申し上げます。

【板倉スポーツ・文化局長】

千葉県スポーツ・文化局長の板倉でございます。

委員の皆様におかれましては、本日は御多用の中、千葉県スポーツ推進審議会に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また日頃より委員の皆様には本県のスポーツ振興に当たりまして、御尽力いただいておりますこと、この場を借りまして、改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

さて今年度は、パリオリンピック・パラリンピックをはじめ、非常にスポーツが盛り上がった一年だったのではないかと思います。

千葉県におきましては、11月にちばアクアラインマラソン2024を開催させていただいたところですが、コロナ禍以降、6年ぶりに観客の方たちの声援も解禁し、フルスペックの大会となったところでございます。

おかげさまで約1万7,000人のランナーの皆様にはアクアラインを駆け抜けていただくとともに、沿道にも約27万人の方々にお集まりいただきまして、スポーツの振興はもとより、地域の活性化にも寄与できたのではないかと考えているところでございます。

本日の審議会ですが、第13次推進計画の点検評価について御協議いただく予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。

今年度も、子供の体育スポーツ活動の充実と体力の向上、また、誰もがともに楽しめる

パラスポーツの推進など、6つのリンクと、29の評価指標を踏まえまして、各取組を進めてきたところでございます。

それぞれの指標を見てみますと、先ほど申し上げましたように、パリオリンピック、パラリンピックが開催され、千葉県ゆかりの選手も非常に多く出場し、パラリンピック競技日本代表者数が増加するといった状況ですとか、パラスポーツの観戦体験率が上向いているというような状況がございます。

詳細は後程担当課長の方から御説明させていただきますけれども、来年度より、次期千葉県体育スポーツ推進計画の策定に向け、本格的に協議いただくこととなりますので、委員の皆様には、次期計画の策定も見据えまして、施策の方向性や改善点について、専門的な視点から御指導、御助言を賜ればと考えております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは議事に移ります。議長につきましては、越川会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【議長】

それでは次第に沿って議事を進行させていただきます。

まず、報告事項につきまして、事務局から説明をお願いします。

【岩埜競技スポーツ振興課長】

競技スポーツ振興課の岩埜と申します。よろしくお願いいたします。第78回国民スポーツ大会チームちばの活躍についてご報告いたします。資料2-1をご覧ください。

国民体育大会から国民スポーツ大会等へと名称が変更され、第78回大会は、冬季大会のスケート競技及びアイスホッケー競技が北海道、スキー競技は山形県、本大会は「佐賀2024国スポ」として佐賀県を会場に開催され、本県は総勢567名の選手団を派遣しました。

総合成績につきましては、本県は男女総合成績で、1426.5点を獲得し、第9位の結果に終わりました。また、女子総合成績は806.5点を獲得し、2大会連続入賞となる7位の成績を収めました。また、競技別成績では、天皇杯得点で15競技、皇后杯得点で9競技が入賞しました。

本県選手の活躍は、次代を担う子供たちに大きな影響を与え、本県のスポーツの推進に大きく寄与するものです。第79回大会は、すでに冬季大会が終了し、本大会は滋賀県で開催されます。引き続き、男女総合成績、天皇杯得点、女子総合成績、皇后杯得点ともに8位入賞を目指し、選手強化に取り組んでまいります。私からの説明は以上です。

【小林生涯スポーツ振興課長】

生涯スポーツ振興課長の小林でございます。よろしくお願いいたします。

続いて資料2-2を御覧ください。第23回全国障害者スポーツ大会での本県選手団の活躍について御報告いたします。10月に佐賀県において、「佐賀2024全障スポ」が開催され、本県からは、陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、

ボーリング、ボッチャの7競技に、総勢106名の選手団を派遣しました。メダル獲得数は、金メダル47個、銀メダル24個、銅メダル14個で、選手団別の金メダル獲得数は全国第3位の好成績を収めることができました。来年度は国民スポーツ大会と同じ滋賀県での開催が予定されており、引き続き、選手強化に取り組んでまいります。

次に資料3をご覧ください。ちばアクアラインマラソン2024についてですが、昨年11月10日の日曜日、曇り空ではございましたが、絶好のコンディションのもと、ちばアクアラインマラソンを開催いたしました。今大会の出走者数ですが、マラソン、ハーフマラソン、車椅子ハーフマラソンの3種目全体で1万7,402人のランナーが海の上を駆け抜け、全体の完走率は、前回大会並みの91.9%となりました。

資料の裏面をご覧ください。各種目の入賞者ですが、マラソンの女子1位の山口遥選手は、今回の優勝で大会4連覇となりました。

マラソン男子優勝の蜂須賀選手とハーフマラソン男子優勝の作田選手、女子の関谷選手の3名は、千葉県ゆかりのランナーとなります。

沿道応援者数は、イベント会場を含めて、27万人でした。

ファンランイベントですが、千葉銀行の御協力をいただき、海ほたるを会場に実施いたしました。前回大会で親子ランと車椅子ランを初めて実施したところですが、今大会では、ペアラン、ウォーキングの部、バギーの部を追加し、参加人数を拡充して、140名の方々にご参加いただきました。

続いて資料4をご覧ください。令和6年度各種表彰について御報告します。まず1ページ目を御覧ください。県では、パリ2024オリンピックにおいてメダルを獲得された本県ゆかりの選手に対する表彰を行いました。

県民栄誉賞につきましては、金メダルを獲得した記載の3名、知事特別賞は、前回大会で金メダルを獲得し、パリ大会でもメダルを獲得した記載の2名、知事賞は、銀メダルを獲得された記載の2名の方にお贈りいたしました。

続きまして3ページをご覧ください。同様に、パリ2024パラリンピックにおいてメダルを獲得された本県ゆかりの選手に対し、県民栄誉賞は記載の3名、知事特別賞を2名、知事賞6名の方にお贈りしました。

次に、8ページをご覧ください。第4回世界弓道大会において、優勝を果たした日本代表チームの一員である木川選手に知事賞をお贈りしました。

次に9ページをご覧ください。県ではスポーツ基本法及び千葉県表彰規則に基づき、本県のスポーツの振興に功績のあった個人や団体、また、国内外の各種スポーツ大会で優秀な成績を収めた選手やチームに対して、体育スポーツ功労者等顕彰を行っております。顕彰式を今月の21日金曜日、午後3時から県庁で開催いたします。

10ページをご覧ください。地域スポーツの健全な普及発展に貢献した生涯スポーツ功労者につきましては、記載の15名の方を表彰いたします。

次の11ページは、地域スポーツ活動の普及に積極的に取り組んでいる生涯スポーツ優良団体として、記載の12団体、12ページ以降は、昨年の1月から12月に開催された各種大会で優秀な成績を収めた個人、チームに対する表彰で、優秀スポーツ選手の個人の部は合計145名、うち35名がパラスポーツ部門の選手となっておりまして、17ページ、18ページが、パラスポーツの選手の表彰となります。

また、19ページから21ページが優秀スポーツチームに対する表彰で、計20チーム、うち1チームはパラスポーツ部門のチームとなります。

最後の22ページですが、今回が10度目の受賞となる、記載の4名の選手を特別功労者として表彰いたします。

次に、資料5を御覧ください。令和6年度県民の運動スポーツに関するアンケート調査の結果について御報告します。2ページ目の調査の概要ですが、本アンケートは、令和6年9月27日から10月31日までの約1ヶ月間実施し、6,263件の有効回答をいただくことができました。アンケートで集計した数値につきましては、後程説明します、令和6年度点検評価の基本資料にもなっておりますので、ここでの説明は割愛をさせていただきます。

報告事項の説明は以上となります。

【議長】

今報告事項ということでお話がございましたけれども、皆様いかがでしょうか。

【委員】

まず、資料2-1と、資料2-2に関してですが、どちらも「チームちば」という名称にならないかなと。この場ですぐやりますと答えていただくのは難しいと思いますので、ぜひ御検討いただいて、国スポも、全障スポも、「チームちば」の活躍というような、まずは名称から始めていって、スポーツは1つというところを目指すという意思表示をしていただけると非常にありがたいなというふうに感じております。

アクアラインマラソンの方ですけれども、車椅子の樋口選手も柏に住んでいる千葉県ゆかりの選手ということをつけ加えさせていただきたいと思います。

私も当日ファンランの方に参加させていただいて、皆さんと一緒に走らせていただきました。距離はさほどではなかったですけれども、やはり、普段決して入れない海ほたるのランプの道路を走らせていただいたので、本当に非日常的な体験だったなというふうに思いました。やはり障害のある人となない人が一緒に、同じコースを走るというのは、非常に意義のあることだと思いましたので、ぜひ、場所が変わるかもしれませんが、継続して行っていただきたいと思いました。

ここからは補足のような話であるのですが、1つ懸念しているのが、車椅子ハーフマラソンの参加者がなかなか増えないといえますか、関門が厳しくて出られないというのが現状です。

他の大会はどうかというと、大阪マラソンも結構厳しかったのですが、とうとう競技としての車椅子マラソンの部がなくなってしまって、「なにわマラソン」という、720（なにわ）メートルを車椅子の方も走れるというファンランが残りました。何とか車椅子も出られるという大会にはなっているのですが、やはり競技部門がなくなってしまうというのはマイナスであることに間違いはないと思いますので、ぜひアクアラインマラソンの方は、競技部門もしっかりと残していくという方向を、続けていただければありがたいなと思っております。

【議長】

何か事務局の方でございますか。「チームちば」の名称についてはどうですか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

名称につきましては、両方とも「チームちば」ということで同じだと思いますので、今後どういうふうに呼称するかを検討させていただければと思います。

車椅子マラソンにつきましても、引き続き出来るように検討していきたいと考えております。

【岩埜競技スポーツ振興課長】

国スポと全障スポで敢えて名称を分けたり、「チームちば」について固定的な定義がある訳ではないので、今後検討していきたいと思います。

【議長】

ユニフォームも、以前、全障スポも国体と同じようにできないかという話があり、今一緒になっています。できるだけ同じものにしていこうという考え方があると思います。他にいかがでしょうか。

【委員】

御報告ありがとうございます。ちばアクアラインマラソンについて、千葉銀行プレゼンツとありますが、どういった取組をされているのでしょうか。27万人という集客力と1万7,000人というところは、かなり、大きなことができる場所だと思いますので、どういった取組をして、どういうふうに資金を捻出しているのか、お聞かせいただければと思います。

【アクアラインマラソン準備室 進藤主幹】

ファンランの方でございますけども、千葉銀行さんに御協賛いただき、千葉銀行さんが求めている多様性に向けての取組と千葉県が目指している多様性の取組とが一致する部分があり一緒にやってみようというスタンスの中で、様々な種目、前回大会の親子ランと生活用車椅子だけではなく、ウォーキングや、ペアラン、バギーの部など、種目数を増やして、取り組んだところです。

今後については、海ほたるの使用という点で、NEXCOさんに非常に御協力いただかなくてはならない部分もございますので、実施に向けては、安全性も含めまして慎重に検討した上で、次回大会に向けて、事務局と関係各所とで協議を進めているところでございます。

【委員】

我々もスポーツを通じて、地域のために活動して企業に賛同いただき予算を捻出しています。スポーツを通じた地域貢献は我々の仕事でもあるので、そういったところで、何かもっとより良いものを作っていけるのではないかと思いますので、メニューや取組の詳細

細が分かるものがあればいただけたらと思います。

【アクアラインマラソン準備室 進藤主幹】

御協賛につきましては、改めまして御報告させていただければと思います。

千葉県の取組を色々な方々と連携して実施していく、千葉県最大のスポーツイベントとなっておりますので、色々な方々に御協力いただいて、良い大会が次回大会もできたらということで、進めていければと思っております。御協力のほどよろしくお願いいたします。

【板倉スポーツ・文化局長】

少し補足させていただければと思います。アクアラインマラソンは実行委員会形式で実施させていただいております。県内のたくさんの企業の方々に御協賛をいただいております。協賛の金額も大小様々御用意させていただいておりますので、また次回の大会につきましては、来年度の夏ぐらいには大方決まってくるかなと思っております。

また決まり次第、御案内をさせていただければと思いますので、ぜひ、千葉ジェッツさんにも1口御協力いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【委員】

検討させていただいて、せっかくであれば、皆さんで始められたらと思います。協賛を出すだけではなく現場にも行って、一緒にできたらいいなと思います。

【議長】

アクアラインマラソンの参加者は今回1万7,000人ですが、この先もっと増やすことはできるのでしょうか。アクアラインを走れるというのは、あまり経験できないことで、まだまだ人気があるのではないかと思います。

【アクアラインマラソン準備室 進藤主幹】

フルマラソンが1万2,000人、ハーフマラソンが5,000人、計1万7,000人ということで、定員を決めるに当たっては、関係各所と安全対策等について、雑踏警備体制も含めて県警等と相談しながら決めておりますので、もっと多ければという御要望も聞こえてはおりますが、皆様方に御協力いただきながら検討していきたいと思っております。

【委員】

今の御質問に関連して、いわゆる申込みの方はこれまでと比べていかがでしょうか。全国的に市民マラソンブームのピークが過ぎたというような傾向が色々と耳に入ってくるのですが、アクアラインマラソンについては、どのような状況ですか。

【アクアラインマラソン準備室 進藤主幹】

申込みの状況につきましては、一般枠の申し込みにつきましては、フルマラソンの方が1.1倍、ハーフマラソンについても3倍弱ということで、定員を超えております。他大会が定員割れを起こしているという状況は、我々事務局の方も把握しているところでござい

すが、本大会は定員を超えており、ランナーから期待をされる大会というふうに考えています。2年に1回というところでございますので、そのレア感ですとか、リピーターの数も比較的多い大会ということで分析しております。

【委員】

ありがとうございます。意見なのですが、アクアラインマラソンの開催そのものに関しては特に異論はないのですが、今の全体的な傾向の中で、千葉県も、また他の県でも、市町村単位で市民マラソンをやっていると思うのですが、千葉県内も、年間でいえばかなりの大会数があって、それらが一時に比べて縮小あるいは開催を取り止めるような自治体も出てきているという状況にあらうかと思います。

アクアラインマラソンもそうですが、東京マラソンのいわゆるオープン化をきっかけに日本で一大マラソンブームが始まりましたので、それぞれの自治体がマラソン大会を開催する際にも、本当に開催する意味、例えばその自治体の住民の方に対する効果や、いわゆる交流人口の創出など、あまりしっかりと検討しなくても人が集まるというふうなところから始まって、今それが下火になってきていると。

やはりこれから先は、改めて、何のための市民マラソンなのかということが問われてくるのではないかと思います。

先ほど話がありましたように、アクアラインマラソンについては実行委員会方式で県の方で開催しているということなので、県内の自治体の大会とは直接的には関係はないとは思いますが、おそらく、これから各自治体の大会が大きな岐路に面してくると思いますので、それをどう方向づけるかというのも、県のスポーツ推進の1つの役割としてはあらうかと思います。

限られた予算を、ただ縮小したマラソン大会のためだけに使えばいいということにはならないと思いますので、例えば市町村が行うマラソン大会というものが、スポーツ推進上どういう意味をなすのか説明力というものが問われてくると思います。今の時点では私の意見を述べるに留まるのですが、アクアラインマラソンが1つのモデルとして、規模は違えど、大会に込められた考え方というのが、県内の小さな大会にも浸透していくような1つのシンボルになる、そういう大会に更にしていっていただければ素晴らしいと思います。

ちなみに、私も最初、フルマラソンを走らせていただきまして、もの珍しさでアクアライン走ったのですが、アクアラインを終わりますと地元の子供たちも含めてすごく声援があって走りやすいのですが、アクアライン上がとにかく辛く、応援がない状態。ただそれも非常にいい思い出になっておりますので、そこに市民マラソンとしての意義というものを、更に付け加えていけば素晴らしいと思います。意見として述べさせていただきます。

【委員】

海外からの参加者は増えているのでしょうか。大会目的でも、インバウンドでもどちらでもいいと思いますが。

【アクアラインマラソン準備室 進藤主幹】

前回大会の2022年がコロナ禍ということで126名、今回はフルスペックの大会というこ

とで、279名の御参加をいただいたところでございます。

台湾など、アジア地域の方々が多くいらっしゃったという実績でございます。

【委員】

割合としては多いとは感じない数字かなとは思いますが、海外向けにコマースは打たれているのでしょうか。

【アクアラインマラソン準備室 進藤主幹】

今回、アジア地域でマラソンブームということで、台湾などを対象に、大会の運営会社やJTBさんと組んでプランを作って販売したところでございます。

【委員】

色々なところでオーバーツーリズムが問題になってますけれども、やはり海外からのお客さんというのは、大会以外にもお金を落とすと思いますので、そういうところも含めてのメリットなのだろうなというふうに私も思いますので、ぜひ進めていただければありがたいと思います。

【議長】

東京マラソンが3万7000人ぐらいですかね。毎回申込み者数やリピーターも多いようですが、アクアラインマラソンはいかがでしょうか。

【アクアラインマラソン準備室 進藤主幹】

ランナーアンケートの結果からですが、今回初めて参加したという方が半数、リピーターが半数おり、リピーターの方も多数いらっしゃいます。なお、東京マラソンはシックスメジャーズという世界的に大きな大会の1つであり、6つの大会を回ったらコンプリートということで、今回も約3分の1近くが海外からの参加者だと聞いております。

【委員】

県内の自治体の小さなマラソン大会を活かしていくという考え方が、県のスポーツ推進としても必要だと思います。

規模が違うので、大会のコンセプトは違うのですが、地元の大会も出て、県の大会も出るというような、コンプリートではないですが、複数の大会への参加を促して、県内の各自治体のマラソン大会の活性化も狙うという視点がこれから必要になるのではないのでしょうか。

【議長】

ありがとうございました。それでは報告事項につきましての御意見等はこれで終了させていただきます。

それでは次に協議事項に入りたいと思います。初めに協議事項1、令和7年度スポーツ団体に対する補助金の交付についてです。

本事項では私の所属する公益財団法人千葉県スポーツ協会の補助金の件も含まれていますので、1度離席いたします。その間の議長を藤井副会長にお願いいたします。

【議長（副会長）】

それでは、副会長の方で進行させていただきます。

協議事項1、令和7年度スポーツ団体に対する補助金の交付について、事務局より御説明をお願いいたします。

【小林生涯スポーツ振興課長】

それでは資料6を御覧ください。令和7年度スポーツ団体に対する補助金の交付について説明をさせていただきます。

まず、資料下段にある参考の部分ですが、スポーツ基本法第34条に、地方公共団体はスポーツ団体に対し行うスポーツの振興のための事業に関し、必要な経費についてその一部を補助することができるというふうに規定されております。

そして同35条に、スポーツ団体に対し補助金を交付しようとする場合には、スポーツ推進審議会等の意見を聴かなければならないとされているため、令和7年度の補助金について、この場で御説明させていただきます。

まず1番、千葉県スポーツ推進委員連合会事業補助金につきましては、住民に身近な市町村において、スポーツを振興するため、各市町村が委嘱しているスポーツ推進委員の県組織であります、県スポーツ推進委員連合会の運営に要する経費を助成するもので、令和7年度は349万2,000円の交付を予定しておりまして、職員の給与改定に伴いまして、111万円の増額となっております。

2番の千葉県スポーツ協会事業補助金につきましては、県スポーツ協会が行う県民スポーツ大会や指導員養成講習会の開催など、スポーツ振興のための事業に要する経費を助成するもので、令和7年度は738万3000円の交付を予定しております。

3番の国民スポーツ大会ユニフォーム購入補助金は、国民スポーツ大会に出場する種目の競技団体に対し、選手や監督のユニフォームを購入する費用を助成するので、令和7年度は320万7,000円の交付を予定しております。

4番のパラスポーツコーディネーター派遣事業補助金につきましては、県では、千葉県障害者スポーツ協会に配置したパラスポーツコーディネーターを希望する市町村に派遣し、市町村がパラスポーツの体験会等を開催する際の支援を行っております。

令和7年度は、コーディネーターを増員して、市町村が住民向けの相談窓口を設置するための支援を行うこととしており、1,205万7,000円を増額し、2,425万7,000円の交付を予定しております。

5番のパラスポーツ競技団体支援事業補助金は、パラスポーツの競技人口増加を図るため、千葉県障害者スポーツ協会を通じて、各パラスポーツ競技団体が実施する体験会等の費用を助成するもので、令和7年度は520万円の交付を予定しております。

6番の障害者協議組織運営費補助金は、障害者スポーツの振興、普及啓発を図るため、千葉県障害者スポーツ協会に配置したパラスポーツ強化支援部会の運営費を助成するもので、令和7年度は980万円の交付を予定しております。説明は以上となります。

【議長（副会長）】

ただいま説明をいただきました内容につきまして、御意見、御質問ある委員の方がいらっしゃいましたらお願いします。

【委員】

障害者スポーツの世界はお金がないので、補助金をたくさん出していただけるとありがたいと思っています。

4 番のパラスポーツコーディネーターの派遣事業では、大きく額を増やして、市町村に展開していくという御説明だったかと思いますが、具体的に市町村で、どなたが動かれるのかが、かなり重要になっているかと思っています。

おそらく、市町村レベルだと、1 人の担当者がいて、実務を行うことになるのかなというイメージになりますが、その方のスキルや情報網など、そういったものにかなり左右されてしまうのではないかと思っているのですけれども、まずは、市町村のどの部局が担当されるのかや効果の見込みについて、見通しがあれば教えていただきたいと思います。

【小林生涯スポーツ振興課長】

パラスポーツコーディネーターの補助金につきましては、市町村の方で、パラスポーツの体験会をやりたい場合に、市町村の担当者、教育委員会のスポーツ部局、福祉部局など、市町村によって様々ですが、なかなか体験会等を自分で企画したことがないという方が多くなっております。

そういった市町村においても、地元の方を巻き込んでパラスポーツの体験会等をできるよう、県のパラスポーツコーディネーターとして、いろんなネットワークを持っている職員が外向きまして、まず、体験会をやるには、どういった方にお声掛けするのか、どういった方を講師として呼べばいいのか、どういった情報を揃えればいいのかといったことが、分からないということです。なので、体験会を始めからコーディネートして、出来れば市町村の中でそういったネットワークを作っていただいて、翌年度以降は、理想的には自分たちで体験会ができるようにと。

さらに今回はそれを1 歩進めて、住民の方向けの相談窓口の設置まで持っていけるような、もう1 つレベルアップした事業を予定しておりまして、コーディネーターを増員することとし、そのために金額を増やし今対応しようとしているという状況でございます。

【委員】

市町村の役所の、どちらかというと福祉部局が担当するということですか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

両方です。

【委員】

分かりました。ありがとうございます。

【委員】

1番と4番の増加について、特に4番については金額が倍近く増加していますが、どのような根拠になるのでしょうか。市の数が倍になったということではないようですが。

【小林生涯スポーツ振興課長】

まず、増額している部分で1番の連合会の方は人件費を改定したということで増額になっております。4番のパラスポーツコーディネーターの方は、人員を増やしました。

先ほど申し上げましたとおり、今までは体験会の開催支援だったのですが、もう1歩進めまして、今後は、その体験会を開いたことがあるような市町村が、自分の市町村の中でパラスポーツ団体とのネットワークを作り、継続的に事業を推進していけるような、そういったネットワークづくりと相談窓口の設置を支援していきたいということで、パラスポーツコーディネーター自体を増員するものです。その人件費ということで、金額が倍になっているという内容でございます。

【委員】

ということは人数分かかっているってことですね。人数分、純粹に増やしているというイメージでしょうか。

【議長（副会長）】

特に、やはりその増加幅からすると、4番かと思うのですが、その増員というのは、具体的に何人から何人かというのはお伺いできますか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

今まで2名体制でやっておりましたのを、倍の4名体制に増やそうということで、この金額になっております。

【議長（副会長）】

そのコーディネーターの方が増えることで、その方の人件費だけではなく、いわゆる体験会などの機会が増えて、それに伴う支出も見込んでいるという理解でよろしいですか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

市町村で体験会を実施する際の一部講師の方の派遣費用ですとか、そういったものも含んだ金額になっております。

【議長（副会長）】

様々な物価高、その他何か変化がある中で、前年と増減ゼロでいいのかという思いはありますが、また踏襲だけでなく新たな補助財源というようなことも、必要に応じては検討も必要かと思いますが、令和7年度につきましては、ひとしきり御意見が出たかと思えます。それではこちらについては、協議は終了ということで、よろしいでしょうか。

【委員（一同）】

はい。

【議長（副会長）】

ありがとうございます。それでは、越川会長にまた、進行を戻したいと思います。

【議長】

それでは協議事項２、第１３次千葉県体育スポーツ推進計画 令和６年度点検評価に移りたいと思います。リンクごとに説明していただき、協議していきたいと思います。

事務局から説明をお願いいたします。

【小林生涯スポーツ振興課長】

それでは資料７－１をご覧ください。

第１３次千葉県体育スポーツ振興計画の令和６年度点検評価報告書について説明をさせていただきます。時間も限られておりますので、リンクごとの主な指標の達成状況と、主要事業について説明をさせていただきます。指標や事業の進捗について御意見をいただければと存じます。

それでは資料７－１の、まず２ページの基本指標進捗管理表を御覧ください。

アンケート調査の結果や、事業から得られた実績値をもとに、令和６年度の数値を算出し、全２９個の指標が、それぞれ目標値に対してどのような達成となっているかということを示しております。

中でも上昇傾向にある指標といたしまして、まずＡ－１「幼児の休日の運動遊び実施率」ですが、４、５、６年度と増加傾向にあります。

また、Ａ－４「運動部活動満足度」、こちらも中学校、高等学校ともに４、５、６年度と増加傾向にあります。

一方で、Ｄ－３「総合型地域スポーツクラブ認知度」につきましては、４、５、６年度と低下傾向にあるといったような状況になっております。

それでは各リンクの主なものについて、詳しく説明をさせていただきます。

まず、５ページをお開きください。まずリンクＡ、「子供の体育スポーツ活動の充実と体力の向上」の基本指標のＡ－１「幼児の休日の運動遊び実施率」、こちらは休日に１時間以上運動遊びを実施している割合ですが、令和５年度と比較して、２.１ポイント上昇の５９.８%となりました。

総括の記載ですが、保護者への啓発、情報発信として、体を動かすことの重要性を周知する、家庭教育リーフレットの配布や、運動遊びができる施設、講座情報等のホームページでの発信を引き続き行ってまいりました。

新型コロナウイルス感染症が５類に移行して、もうすぐ２年になりますが、運動遊びが日常に戻る中で、施策の効果も着実に表れてきているものと考えられます。

次に８ページをご覧ください。基本指標のＡ－４「運動部活動満足度」は、令和５年度と比較して、中学校は横ばいの７８.９%、高等学校は６.４ポイント上昇の８４.８%となりました。

総括の記載ですが、公立中学校における休日のクラブ活動の地域への段階的な移行について、5月と11月に市町村担当者向けの説明会を開催し、地域のスポーツクラブとの連携のあり方、費用負担のあり方、課題等を共有しました。また、専門的な指導力を備えた、外部指導者を県立学校へ49名、公立中学校に121名配置するとともに、安全に部活動運営を行うために、スポーツ障害の予防や応急措置についての講習会を開催しました。

基本指標につきまして、中学校の方が低いのは、顧問の中には、競技が未経験で、専門的な指導ができない人もいることなどが背景にあると考えられます。高等学校につきましては、コロナ禍での制限がなくなり、満足感を感じている人が多いのが増加の要因の1つであると考えられます。

今後も生徒のより良いスポーツ環境を整えることを目的に、公立中学校への部活動指導員の配置や県立学校への外部指導者派遣の拡充を図ってまいります。

続きまして10ページをご覧ください。リンクB、「人生を豊かにするスポーツの推進」の基本指標、「成人の週1回程度のスポーツ実施率」は、全体で53.9%となり、令和5年度実績よりも0.2ポイントの上昇ですが、ほぼ横ばいの傾向となっております。

11ページの総括をご覧ください。10月をスポーツ推進月間としまして、関係団体と連携して、親子を対象とした体験講習会などを実施したほか、鳥取県で開かれたねんりんピックに、本県選手を143名派遣するなど、シニアスポーツの推進に努めました。

基本指標であるスポーツ実施率は、令和3年度より減少傾向が続いておりますが、コロナ禍において、一時的に形成された運動との関わりが継続せずに、元に戻りつつある状況です。アンケート調査におきましても、運動やスポーツの実施が週1回未満である理由は、「仕事や家事が忙しくて時間がないから」が約4割を占めております。現在、働き盛り世代や、子育て世代向けに、日常生活の中で、無理なくできる運動例を示したリーフレットを作成しており、今後このリーフレットを配布するなど、運動の習慣化に向けた取組を進めてまいります。

次に、12ページをご覧ください。リンクC、「誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進」の基本指標、「パラスポーツの観戦・体験率」ですが、令和5年度と比べ3.7ポイント増加し、51.1%となりました。

要因としましては、昨年夏にパリパラリンピックが開催され、パラスポーツを観戦する機会が増えたことが影響していると考えられます。

総括をご覧ください。昨年度に引き続き、パラアスリート等を県内の小中学校17校、特別支援学校13校に派遣して、講演会や体験会を実施し、1月末現在で2,129名の児童生徒が参加しました。

また、8月に千葉市内で障害のある方もない方も、誰もがパラスポーツを体験できるイベント、パラスポーツフェスタちばを開催し、473名にご参加いただき、12月に我孫子で開催したパラスポーツフェスタとうかつでは、234名にご参加いただきました。

さらに今年度から、障害のある方が身近な地域でパラスポーツを体験できるよう、特別支援学校4校で、パラスポーツ教室を開催しており、来年度は6校に拡充して実施をする予定です。

続いて、13ページをご覧ください。「パラアスリートへの強化・支援の推進」の基本指標、「パラリンピック競技の日本代表者数」ですが、令和5年度から4名増加し、44名

となりました。これは東京パラリンピックが開催された令和3年度の数値とほぼ同数であり、トップレベルのパラアスリート数を維持できているという状況です。

総括をご覧ください。千葉県ゆかりのパラアスリートの強化指定や、強化活動への助成、有望選手の掘り起こしを行いました。パリパラリンピックでは、本県ゆかりの選手22名のうち、11名がメダルを獲得しており、これまで継続的にパラアスリートの支援に取り組んできた成果が表われているものと考えております。次期ロサンゼルス大会においても、より多くのパラアスリートが活躍できるよう、引き続き支援体制の充実を図ってまいります。

一旦リンクAからリンクCまでで説明を区切らせていただきます。よろしくお願いいたします。

【議長】

ただいま、リンクAからCまで話をさせていただきました。まずリンクAから、委員の皆様、御意見等あればよろしくお願いいたします。

休日の運動遊び実施率ということで、いかがでしょうか。

【委員】

5ページの総括のところですが、幼児期運動指針を活用しての研修会の実施の成果で、2.1 ポイントアップってところが印象的だったのですが、千葉県内の私立幼稚園の数ですけど370園ぐらいあると思うのですが、この保育者の研修の参加率はどのぐらいだったのかと関心を持ちました。

この研修の参加率が上がると、またさらに、休日の運動遊び実施率っていうものも上がってくると感じたのですが、もし分かりましたら教えていただきたいなと思いました。

あともう1つですが、事例もそうなのですけれども、地域の幼稚園の園庭開放ということが、園の独自でイベント的に開催すると、親子で参加してくださる人数が増えます。そこで、地域の小学生、中学生や高齢者の方々まで皆さん、園庭に集って、子供たちの遊びを見守るような、そういった休日の過ごし方が子供たちと一緒にできれば、またさらに、世代を超えた交流、それから、住民の方々のスポーツ参加を促進しながら、その中で子供たちが、遊びを通して運動で育っていくというような理想的な形ができるのではないかと思います。

【議長】

事務局で、今の参加率については分かりますか。

【事務局】

事務局では把握しておりません。

【委員】

やはり働き方改革もあって、保育現場の保育者たちも時間に追われて、なかなか研修に参加することが今難しいという現状がありまして、保育者の質向上であれば、子供たちの

そういった運動遊びの充実に繋がると思いますので、自園もそうなのですけれどもできるだけ参加しやすいような研修を開催していただけるとありがたいと感じました。

【議長】

委員の幼稚園では具体的に運動遊びはどのようにされているか、何か例があれば教えてください。

【委員】

なかなか保育者自身が運動に関して専門的な知識、経験が全員あるとは言えませんので、週1回体育講師の先生を招いての正課活動を、年少から年長まで、体育の時間をカリキュラムに入れて遊びを通して運動を行っております。あと、課外活動として、民間のスポーツクラブに入っていて、希望者が週1回スポーツクラブに通うという形をとっています。

【議長】

ありがとうございます。幼稚園の活動というのは園が独自にやっていることが多いのでしょうか。

【委員】

そうですね。私立幼稚園です。

【議長】

幼稚園の運動遊びが具体的にどんなことをやっているか、調査をしたことはありますか。

【事務局】

事務局では把握しておりません。

【議長】

幼児教育という観点で、何かございましたらお願いします。

【委員】

指導者の講習は割と県や市で開催されているイメージなのですが、恐らく全員は無理で、初任者研修や10年研修等にあわせて、やられているのかなと思います。

【委員】

8ページのところで、時節柄、部活動問題は、慎重に考えたほうがいいと思いますので発言させていただきます。

数字として中学校は横ばいで、高等学校は78.4%から84.8%へ増加ということなのですが、それに対する総括、特に総括の中の2段落目、「中学校では昨年度と同数値で高等学校においては約6ポイント増加が見られた」、「中学校は顧問が競技未経験で専門的な指導が

できないことなどが背景にあると考えられる」については推測の域を出ないのではないかと思います。

この78.9%で横ばいというのも、決して悪い数字ではありませんので、ここの表現は個人的には賛同できないかなと思います。

これから、地域展開等で外部の指導者を質的な保証を目指しながらやっていく中で、県がこれを書いてしまうと、地域部活動にせよ、学校部活動にせよ、顧問は競技経験者で専門的な指導ができるということが、顧問の役割だと県は考えていると言っているのと同じになります。

決してそうではなくて、専門種目外でも、子供たちに非常に関心を持って取り組ませ、努力をされている先生方がいらっしゃるので、この表現は使わない方がいいのではないかと、意見として述べさせていただきました。

【議長】

なかなかこの指標に対する根拠理由が見つからないので、こういうこともあるだろうなということもあるのかなとは思います。

【委員】

横ばいで悪いということはないと思います。高校が増えていることだけ指摘すれば十分かと思います。

【オブザーバー】

今の委員の言葉を非常にありがたく感じたところです。中学校の現場からすると、確かに専門ではない先生方も指導しているのですが、子供たちをしっかりと伸ばしているというような実績があり、全てではありませんが、専門だからといって、部の経営がうまくいっているということでもない例も実際にあります。

色々な条件の中で、子供たちを育てていくという部分では、横ばいではありますが、その体力のことについても色々触れているのですけれども、コロナ前よりも、すごく精選されてきて、ガイドラインを守りながら、きちんと指導をやっているというようなところは、近くの学校の状況や千葉県の小中学校での部活動の指導についても、非常に効果的で良くなっているのかなと感じます。

【オブザーバー】

これは令和3年度から令和6年度のデータですので、令和3、4年度は、コロナ禍にありますので、出来たら、令和元年のデータを教えていただけると嬉しいのですが。

なぜかといいますと、コロナがあけて、運動が一生懸命できるようになったということで、こういった増加傾向にあると推測されるのですけれども、それよりも前と比べてどうだったのかっていうのがちょっと、知りたいなというふうに思います。

高等学校の現場としましては、やはり、コロナが明けたことによって、子供たちは本当に伸び伸びやっている。大会を見ても、本当に前に戻ったなと、活気を感じる部分が非常

に大きいです。そこがこのデータに表されているだろうと思います。

一方で、先ほどから課題に出ています、指導の問題であったり、指導者の拘束時間の問題であったりということは、高等学校においても問題になっています。それをどうにかしていかなければいけないという動きも、実は先生方の中には根づいてきているということは申し上げたいと思います。

【事務局】

こちらで今データを確認した中ですが、令和元年度の運動部活動満足度、中学校は72.0%、高等学校が70.1%となりました。

【オブザーバー】

ということは、コロナにあまり関係がなく伸びてきているということだと思いますので、良い傾向ではないかと感じました。

【委員】

子供の体力という括りでの話になりますが、このアンケートに関して、以前の任期の際だったかもしれませんが、答えている方の障害の有無や、お子さんについて答えている場合でお子さんの障害の有無が分からないというお話を随分前にもさせていただいたかと思います。

そこは、なかなか改善が難しいというのは理解していますが、やはり幼児期の運動経験というのは、障害があってもなくても、大人になってから運動習慣に大きく影響するはずなので、やはりそこで障害があって療育を受けているような子供たちが、果たしてちゃんと運動できているのかというところを取りこぼさずに見られる方法があると良いと思います。

次期計画にも関係するような話になると思いますので、方法は今僕私も思いつかないのですが、アンケートとは別の形で、取りこぼしのないように拾っていけないかなと思います。

別立ての項目ができてしまうと大変になってしまうと思うので、パイは小さいので、やはり医療や福祉部門と連携をとれば、ある程度見えてくるのではないかなと思いますので、療育を受けている子供たちが運動できているかどうか、親御さんの意識がどうかということも含めて、見ていただくとありがたいと感じました。

【委員】

アンケートの項目に、障害者ですかとはなかなか聞けないと思います。

自分のことをセンシティブに捉えている人間はいますし、それは答えたくはないという人もいるだろうから、そこで正確な数字やデータにしていくというのが、逆に難しくなってしまうのかなと思います。

ただ、そのデータの信用度が下がってしまったら取らない方がいいという考え方もあると思いますので、別で調査をしていただくというのにも必要かなと感じました。

【小林生涯スポーツ振興課長】

今やっているこのアンケート調査の中に、障害の種別を入れていくのは難しいということと、前回の審議会でも、先生の方から、障害のある方のスポーツニーズが今のところ分かっていないというお話もあり、そういった御意見も踏まえまして、この後の説明の中で入れる予定だったのですが、今年度の当初予算で、「障害者のスポーツ参加促進に関する調査検討業務」というのを予算立てしました。

障害のある方のスポーツに関するニーズや、障害者を受け入れている施設の方、医療リハビリ施設の方、そういったところにアンケート調査を行いまして、障害者のスポーツニーズを把握し、施策を検討していく新規事業を、今年度当初予算で計上させていただいております。

【志村保健体育課長】

保健体育課長の志村と申します。

先ほどの御指摘のあった部活動の件につきまして、この総括の中での表現につきまして、今御指摘いただき、ごもっともだなというところもございますので、この中学校はということについては、表現については、削除や別表現にするなど検討したいと思っております。

背景としまして、私どもの課の方で部活動の地域移行、休日の部活動の地域移行を担当していますが、やはり指導者の問題については非常に大きな問題でございまして、今県の方でも指導者講習会をかなりやらせていただいているのですが、これから令和7年度までの改革推進期間、8年度以降のこの改革実行期間という形になっていくのですが、そこにおいても指導者の問題が非常に大きな問題で、これについては、各市町村が頑張ってくださいているのですけれども、引き続き県の方からも、支援をしていくような形を行っていかねばならないというところです。

それから、また、今第13次の計画でございますが、第14次を考えていくにあたって、この部活動の地域移行、ちょうど令和7年度が推進期間の終了、8年度が移行実行期間ということで変わってきますので、ここの部活動に満足しているかどうかというような、アンケートの取り方というか、指標自体も少し検討していかなければならない、変えていかなければならないかなと思っているところでございます。

中学校、それからもちろん高校もそうですけれども、部活動のあり方ということ、根本から考えていかななくてはならないところもありますので、そういうことも含めて今後いろいろ検討していきたいというふうに考えます。貴重な御意見ありがとうございました。

【委員】

この質問が現在加入している運動部活動や、地域のスポーツクラブに満足していますかという質問なのですね。

ですから、高等学校の部活動の地域移行に関しては、基本的にはまだほぼ進んでない状態という理解でいいと思うのですが、もしかすると高等学校の満足度が上がっている背景には、学校以外でのクラブチームですとか、そういったところの活動の影響もあるのかもしれません。

先ほどの資料5のアンケートも拝見しているのですが、ここで、その所属状況は分かりますよね。全体では、学校の活動に所属しているのは32.8%、地域が15.5%と、その他もある訳なのですが、この所属状況と満足度を、公表する必要まではないと思いますが、やはり内訳として、学校とそういった地域とで比較をしていく。今後、地域展開していく上での基礎的な情報として把握されておくといいと思いますので、そういった分析が必要かなと思いました。

【委員】

このアンケートからずれてしまうかもしれないのですが、話題として今もし分かれば教えていただきたいのですが、今の中学校や高校など部活動が減少していつてしまって、特に中学校だと、ある競技では全中はやらない。高校もインターハイが出来ないというか、学校単位だと、部員もいなくて、なかなか大会を開催できない種目もあるという話もあります。

例えば、体操競技は人口も減ってきてしまって、クラブチームが入らないとなかなか試合形式にならないだとか、ちょっと漏れ聞こえているのですが、千葉県はどのような状況か分かる範囲で教えていただければ。

【オブザーバー】

体操競技での千葉県の状況を言いますと、ここ30年ぐらいはほぼ変わっていません。変わってないというのは、生徒の数は若干減ってはいるのだけれども、学校の数はそんなに減っていないというような状況です。これだけオリンピックで活躍する選手を輩出しているような県ですので、そのような状況だと思います。

ただ、他県のことを考えると、もう県大会が出来ないというような声は当然入っています。体操競技以外で言いますと、スキーは本当にもう選手がいない。開催も単独県では難しく、近隣の県と一緒に、別々の大会ですけども、大会を合同でやっているというような現状もあると聞いています。

夏の競技に関しては、大会ができないというような声は、今のところ聞いていないというような現状であります。

【委員】

小学校1年生から6年生の間は比較的時間に余裕があって、運動している子が多いなというイメージがあります。

週1回スクールに行く子や、週5回バスケットやサッカーをやっている子などがいると思いますが、千葉県全体でどれだけいるのか。小学校、ジュニアの時期から中学校に上がったときに、全体で減っているのかどうかというのが気になります。

満足度は増えている一方、結局そのボリューム層が減っていて増えているのか、そういうのが分かるといいなと思いました。

【議長】

加入率ということでしょうか。

【委員】

スポーツをやっている全体のボリューム層ですね。千葉県内のスポーツ人口が全体でどれだけいて、減っているのかみたいなところも、見えるといいなと思いました。人口は減っているけど、競技スポーツをやっている子は減っていないのかどうか。恐らく小学生の頃はスポーツに没入出来るので、観戦するよりもスポーツをしないと、週5でやっている子も沢山いるので、何かその辺りの情報があるといいのかなと思いました。

【議長】

この部活動のところで、私の推測にはなりますが、日本スポーツ協会が「NOスポハラ活動」を去年か一昨年あたりからやっています。指導者が、暴力はもちろん暴言などそういったものやってはいけないということを、様々な場で色々な人間が話すということで、選手中心で考えなければいけないという考え方も出てきていますし、そういったことで指導者の方の考え方、指導法は変わってきているのが大きいのではないかと思います。それで生徒の方も、不適切な指導を受けてきたものが受けなくなってきたと。

【委員】

今、おっしゃっていただいたように、小学生のスポーツ振興で捉えたときに、どれだけ地域クラブでやっているのかというところが分かると、今おっしゃったような御意見も出てくるのだと思うので、知りたいところです。

バスケットボールは、プロが始まってからまだ8年目です。これから、コーチライセンスを取って、ライセンスを付与しながら、皆さん、指導者として頑張ってほしいなというところと、やはり小学生年代のヘッドコーチをやられている方はボランティアでやられているので、結構年齢層も高めな方たちが多いのが現状です。

【議長】

続いてリンクBについてはいかがでしょうか。

週1回程度のスポーツ実施率ということで、このあたりについての御意見があればお願いいたします。

【委員】

10ページの、週1回以上のスポーツ実施率ですが、これは資料5のアンケートの方でも確認させていただきまして、前回は発言させていただいたかと思うのですが、今後のことも含めて考えますと、どのように実施したか1つだけ選択するというものですが、1つだけでスポーツ生活が成り立っているということはやはり考えにくいです。

ランニングやウォーキングをしているし、施設で自由な運動する場合もあるし、場合によってはイベントや大会などに出る。人々のスポーツとの関わりというものは、複数の機会が組み合わさって成立しています。

次の国のスポーツ基本計画もそうですし、現在の計画もそうなのですが、今しきりに推している言葉としては「ウェルビーイング」というのがあると思います。

やはり単独の各スポーツ活動との関わりではなくて、そのスポーツが生活の中にどう位

置づいているかという総合的な視点というものが大事になってくると思いますので、前回も申し上げましたが、この質問に関しては、1 つだけというのを最も頻度が高いものというふうに解釈するならば、経年的な比較をするためにこの質問を残しながら、それとは別にもう 1 問、今、関わりを持っているものすべてを選んでくださいという、その質問をやはり入れるべきではなかろうかと思います。次の次期計画も見据えた上での意見ということで述べさせていただきました。

【議長】

報告書を見ますと、60才以上は74%超とスポーツ実施率が非常に高いですね。やはり時間があるということが一番大きいのですかね。

そういうことがあると、時間がないところでも運動ができるような場が近くにある、施設がある、総合型クラブで仲間がいる、そういったところが必要になってくるのでしよう。

自分だけでランニングしたり、ジョギングしたりとかはできますけども、仲間と一緒にそういうふう運動ができた方がうれしい、楽しいかなと思います。そういった観点で、総合型クラブのようなものは、地域にたくさん出てくるといいなと思います。

【委員】

県のアンケートでもスポーツ庁の調査でも、ウォーキングや階段の上り下りも運動に入りますが、これが、厚生労働省の方では、健康づくりのためのエクササイズガイドの中では、それらはいわゆる「生活活動」ということで、生活の中での一定強度以上の運動、その中にこの階段昇降とか、いわゆるスポーツ庁が使っている一駅歩き、ぶらぶら歩き、例えば、ビジネスパーソンが営業の合間を縫って一駅歩くといったものも「生活活動」に入っています。

ウェルビーイングと言っている位なので、今後ますます、生活活動も含めた生活の中での身体活動量に国も注目していくことになると思いますし、もちろん県としてもそれをどう捉えるかということが大事になってくると思います。

前置きが長くなりましたが、運動している内容で、「生活活動」、階段の上り下り等が入っている。

一方では、抵抗条件のところで「仕事や家事、子育てが忙しい」というのが入っていますが、ここに、実は矛盾が生じています。

家事をされている方は、子育てをしながら、子供を持って買い物に行くなど、生活活動で、具体的には、いわゆる3メッツ以上の運動競技、身体活動をやっている訳です。家の中で洗濯物を干したり取り込んだりする、2階まで上がったたり降りたり、庭仕事をしたりとか。

ですから、今後、生活の中で、運動やスポーツだけではなく、健康な心と体のために、体を動かす機会をどう位置づけるのかと言ったときに、おそらく国の次の計画でも、国はそこまでは踏み込まないかもしれませんが、その矛盾が、私はずっと放置されていると考えています。

県民レベルのスポーツを考えたときに、いわゆる運動やスポーツというものと、生活活

動というものを、どういうふうに捉えるのか。ちゃんと生活活動でもいいですよ、というのであれば、そういう計画に今後していく必要があると思います。

そうなってくると、抵抗条件の中の「仕事とか家事が忙しい」というところで非常に矛盾があるので、その概念を整理する必要があるのではないかと思います。これは意見ということで述べさせていただきました。

【議長】

スポーツではなくて、運動に入るのですかね。

【委員】

個人的には、階段昇降はスポーツではないだろうと思っているのですが。国レベルでいうと、スポーツ振興という文教施策としてスポーツ文化を推進するという考え方と、厚生労働省がやっているのは健康づくり施策ですから、その違いがある訳です。

健康づくり施策においては、一駅歩いたりとか、階段を上ったりすることは意味があるのですが、文教施策においては、階段上る人を増やすために、皆さんも私たちも日々仕事している訳ではありません。

しかしそれでも、やらないよりはやったほうが良いですし、健康な人を増やすということであれば、国ではなく、都道府県や市町村レベルでの政策の中では、それらを一体のものとして、健康づくりからスタートするけれども、行き着く先には、アクアラインマラソンでフルマラソンを走ろうとか、地域の総合型スポーツクラブに入ろうなど、スポーツへの発展性というものがあるので、そのところを整理する必要があると思います。

【議長】

スポーツと、日常生活の中の家事あるいは仕事の中でもいいですが、そういう身体活動をどういうふうに擦り合わせるかっていうところなのですかね。

【委員】

しっかりと生活活動も捉えるのであれば、捉えてあげたほうが良いと思います。それで、身体活動を十分にやっていると。それをベースに、その次に運動やスポーツへと発展していったらという。

【議長】

事務局で検討してください。それではリンクCについて、先ほど話もありましたように、観戦・体験率が増えてきて、我々も、テレビや新聞で取り上げていることが、以前に比べると、少しずつ増えているかなという印象を持っています。

【委員】

東京パラリンピック前と後では関心のある人が2割だったのが、今こうして、観たことややったことがあるという人たちが半数に近づいてきているというのは非常に大きな成果だと私も肌感覚でも持っております。

一方では、例えばアンケートの「体験したことがあるパラスポーツ」が、ほとんどボッチャというような結果になってきているのですよね。大事なのは、ボッチャを体験したことよりも、ボッチャを誰とやったかだと思います。

この中に、健常者だけでボッチャをやった人たちが、物凄くたくさん含まれるのだったら、それはもうただのボッチャ大会でしかなくなってしまうので、障害のある人となない人が一緒にやったかどうかということを並行して見ていただく、インクルーシブなスポーツ環境ができていくのかも並行して見ていただくと、成果として、かなり価値のあるものに変わってくるのではないかと思いますので、ぜひそこもお願いしたいと考えております。

【議長】

特支の学校で子供たちを見て、パラスポーツが少し広がってきているという実感はありますか。

【委員】

例えば、学校の中の授業で考えると、やはり色々な方が関わりやすい、障害がある本校の児童生徒でも関わりやすいといったところで、スポーツへの第一歩として、ボッチャや、高等部であればシッティングバレーなど、そういうものもやっています。この他に、学校間の交流で、小学生や中学生と行うこともあります。それから、学校公開授業というのがあり、地域の方を招いて、一緒にボッチャをやるというところで、今、委員が仰ったような、障害のある方もない方も一緒に行うようなイベント的なものも行っているのかなと考えています。

【議長】

特支の先生として、何か要望として、こういったことをしてもらいたいといったことはありますか。

【委員】

比較的パラスポーツを行う機会は色々と増えているのかなと思っております。

ただここで言う話なのか分かりませんが、県内の特別支援学校が集まってスポーツ大会をやるといっても、やる場所がないなど、今色々なところで困っている状態があります。

なかなかその先に進めない、配慮が必要な子供たちがいますので、安心して実施できる施設等が少ないというのは、特別支援学校の中で話題に上がります。そういう施設等が整備されると、もっと子供たちが外に出てパラスポーツを楽しめるのではないかなと考えています。

【議長】

パラスポーツにつきまして、今、競技力向上推進本部でも両方一緒にやるようになっていきますし、行政の方でも一緒にやっています。千葉県スポーツ協会、パラスポーツ協会、もうちょっと一緒になって色々なことができればいいと思っています。

今まで、県スポーツ協会は健常者のための協会、パラはこちらだというふうにはっきり分けていましたけれども、もう少し一緒にやれるところはやったほうがいいのかなと、私も感じます。

それでは、まだ残りのリンクD、E、Fについて、事務局から説明をお願いします。

【小林生涯スポーツ振興課長】

それでは続きまして、14ページから16ページのリンクDについて説明させていただきます。

このリンクDでは、スポーツ環境の整備や充実に向けて、スポーツ指導者講習等の実施、総合スポーツセンター体育館をはじめとする整備事業、県立学校体育施設の有効活用の推進、総合型地域スポーツクラブに対する支援等に取り組ました。

16ページの記載をご覧ください。このページは、総合型地域スポーツクラブについて記載しております。

基本指標につきまして、クラブの数は、我孫子市及び市原市で新設されたことに伴い2件増加したものの、1件が廃止となったため、全体としては、91クラブとなりました。認知度は1.2ポイント減の14.9%、またクラブの会員数は、令和6年度については集計中ですが、横ばいの傾向が見込まれております。

総括をご覧ください。令和6年度も引き続き、総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、未設置市町村に対する協力の依頼や、クラブアドバイザーと連携した助言等を行うとともに、既存クラブに対して、クラブマネージャーの養成や情報交換会の実施など、総合型クラブの活性化に向けた支援を行いました。

来年度は、リンクBの説明でも申し上げました、働き盛り世代や子育て世代向けに作成するリーフレットを活用しながら、さらなるクラブの認知度の向上、外部設立に向けた支援を行ってまいります。

次に17ページをご覧ください。リンクE「競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進」についてですが、基本指標である、国民スポーツ大会の入賞につきましては、先ほど報告事項でご説明したとおり、第9位で、惜しくも8大会連続入賞はなりませんでした。

もう1つの基本指標、学校等へトップアスリートを派遣し、講演会等を実施した回数は、令和6年度は27回で累計85回となり、今年度はオリンピック、パラリンピックが開催されたこともあり、多くの学校から要望をいただきました。引き続き競技力の向上を目指して各種事業に取り組んでまいります。

続いて、18ページから20ページまでのリンクFについて説明します。

リンクF「スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり」では、トッププロスポーツ連携事業や、ちばアクアラインマラソンを初めとしたスポーツイベント、オリンピック、パラリンピックを契機としたオリパラ教育や、地域活性化に繋がるイベント等、様々な事業に取り組みました。

18ページの基本指標は、「トッププロスポーツチームと連携した市町村の割合」、こちらは、プロスポーツチームの選手やコーチを学校へ派遣する、夢チャレンジかなえ隊事業を実施したことのある市町村の割合で、割合としては令和5年度と同じですが、参加人数

は増加傾向にあります。

総括の部分をご覧ください。トッププロスポーツチームと連携し、県内在学の児童生徒を公式戦に招待するちば夢チャレンジパスポートプロジェクトを実施し、今年度は合計 11 万 4,100 名を招待しました。

また指標にもなっている、夢チャレンジかなえ隊派遣事業では、今年度 10 チームが 20 校を訪問し、参加した児童生徒の数は 1,899 名と、前年度より約 700 名増加しております。

次に 20 ページをご覧ください。

オリンピック、パラリンピックのレガシーの継承発展で、基本指標の競技団体等と連携した学校訪問数ですが、今年度は 20 校で、学校訪問を実施し、累計 60 校となりました。

総括をご覧ください。今年度は、神戸 2024 世界パラ陸上に向けたオランダ選手団の事前キャンプを受け入れ、県総合スポーツセンターで開催しているかけっこ教室で、児童と選手が触れ合う交流事業を実施し、国際理解、国際交流促進を図りました。

オランダ陸上競技連盟からは、9 月に開催される世界陸上に対しても、県内での事前キャンプを実施したいとの意向が示され、現在調整を進めておりまして、県民との交流事業の実施についても検討しております。

基本指標にもなっております「競技団体等と連携した学校訪問数」ですが、今年度は 20 校で実施し、児童生徒からは、普段なじみのないフェンシングやサーフィンを実際に体験でき、またやってみたいと思ったなど、前向きな感想が多く寄せられました。

その他、スケートボードや BMX といったアーバンスポーツなど、様々なスポーツの体験会等を開催しており、引き続き、スポーツが県民にとってより身近なものとなるよう取り組んでまいります。

続きましてもう 1 つの資料、資料 7-2 をご覧ください。参考として、令和 7 年度当初予算記者発表資料の中から、主な体育・スポーツ関連事業についてご説明をさせていただきます。

リンク A では、地域クラブ活動体制整備事業として、3 億 7,300 万円を計上しており、休日部活動の段階的な地域移行に向けて、受け皿となるスポーツ団体や文化芸術団体等の整備、指導者の確保等に関する実証事業を行います。

リンク C ではパラアスリート強化支援事業として 4,055 万円を計上しており、本県ゆかりのパラアスリートやパラスポーツチーム等に対する支援を行い、令和 7 年度は、デフアスリートも支援対象といたします。

次の 2 ページをご覧ください。パラスポーツ振興事業は、8,500 万円を計上しておりまして、パラスポーツの普及を図るとともに、障害のある人がスポーツに親しめる環境整備を推進します。主な事業の 3、こちらは先ほど委員から御指摘いただきました事業になりますが、障害者のスポーツ参加促進に関する検討調査、こちらは新規事業で、障害のある方ご本人と障害者の方が通っている福祉施設や医療リハビリ施設、障害者の方を受け入れているスポーツクラブやパラスポーツの競技団体などに対し、ニーズ調査を行い、障害のある方のスポーツ参加を促進するための今後の方策について検討してまいります。

続きまして、リンク D では、総合スポーツセンター体育館整備事業として、4 億 6,906 万 2,000 円を計上しており、大規模大会が実施可能な競技スペースの確保や、利便性の向上

を図るため、総合スポーツセンター体育館の現地での建て替えを行います。

続いて3ページをご覧ください。リンクEでは、千葉県競技力推進本部事業として、2億1,945万円を計上しており、ジュニア世代の支援を含め、国民スポーツ大会やオリンピックなど、国内外で活躍するアスリートを育成します。

最後のリンクFでは、外房サーフィン振興事業として1,052万円を計上しており、東京2020大会のレガシーとして、本県でサーフィンを楽しむ人を増やすとともに、参加者と地域の交流やスポーツを核とした地域の活性化を促進するため、関係団体等と連携して、サーフィン体験会やサーフ文化の発信イベントを開催します。説明は以上となります。

よろしくお願いいたします。

【議長】

ありがとうございました。ただいまリンクDから、E、Fまで、それから、予算について話がありました。いかがでしょうか。リンクDから行きますか。

総合型地域スポーツクラブにつきまして、県スポーツ協会もかなり関わっているものです。

形としては、今ある総合型クラブを支援していくというようなことがメインで、中々新しいところを作るということまではいかない。それは県の方でやっている部分も多いと思いますけども。総合型クラブの方も、クラブはその中の人たちが、子供からお年寄りまで一緒になって何かできればいいということなので、クラブでやっている人たちにとってみると、もっとクラブが増えたほうがいいという意識よりは、地元の子供たちが楽しくやればいいと。

今の日本スポーツ協会の方で、登録制度、今年から認証制度が始まりますので、そういったもので登録をしてもらって良い活動をしてもらおうと、それを日本スポーツ協会の方で認証しますというような形でやるのですけども、千葉県の場合、なかなかそこまではまだいかないというような状況です。

ですので、これを増やすというのは非常に難しいかなと私も実感としては感じております。それが必要ですけど、それよりも今ある総合型をなくさないようにするための支援という方がまだいいのではないかと感じています。

【議長】

プロスポーツについて話がありましたけど、御意見はありますか。

【委員】

ここは本当に、ありがとうございます。昔から夢チャレンジプロジェクトは、皆さんにお世話になっていて、本当に多くの方に来ていただいたなというふうに思っています。

我々も、そういった観に来ていただいている方たちのため、また、協力していただいている方たちのためにしっかりと運営と協議を頑張っていけたらと思います。

逆に何かあれば、担当に言っていただいて、もっとこうした方がいいなどがあれば、忌憚のない意見をいただけたら嬉しいというところです。この場を借りてお礼申し上げます。

【議長】

プロスポーツの連絡協議会について、教えていただけますか。どのような取組、方向性なのでしょうか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

トッププロスポーツ連絡協議会というのを持っておりまして、千葉ジェッツをはじめ、県内各地にプロスポーツチームがございますので、皆さんにお集まりいただいて、当課で実施しておりますちば夢チャレンジパスポートプロジェクトですとか、かなえ隊の事業の説明をさせていただくとともに、各チーム、スポーツに限らず、例えば去年は、150周年記念イベントでは、各チームのチアリーディングの方ですとか、選手の方に来ていただいて、イベントを広く盛り上げていただいたほか、各チームの試合のときに、県の観光コーナーや県産品のコーナーを設置させていただいて、県のPRにも御協力いただいております、そういった事業の共有を図るとともに、今後も引き続き連携して取り組んでいきたいということで、情報共有、意見交換の場を設けております。

【議長】

ありがとうございます。いかがですか。他に御意見があれば。

【委員】

総合型クラブですが、先ほど、議長がおっしゃったような、新しいものを作る難しさはありますが、国としても、量的拡大よりも質的な充実というような段階にもあります。

なので、無理に作ってですね、立ち行かなくなったり、本来の意義を果たさないクラブを作ったりということよりは、今あるクラブをしっかりと運営していくということが大事だろうと個人的には思っています。もちろん新しいものを作らなくていいということではないと思いますが、今のものを、というふうに思っております。

今後、先ほどありました日本スポーツ協会のいわゆるクラブ認証の話も出てくると思うのですが、地域の指導者を質的に確保するという話が今始まっている中で、これをどういうふうに判断するのかという難しさが非常にあると思うのです。

それで、これは前々から申し上げているところなのですが、地域展開に関しては、国が進める政策、いわゆる今まで学校にあったものを地域と一緒に展開していくという方向性の改革が1つ、それから、もう1つは、結局、幅を持った改革になると思うので、完全に全ての学校の全ての部活動を地域に展開するというのは、今の段階で物理的に考えて難しいだろうというところがありますので、学校への残し方、あるいは、完全に地域には出さないけども地域と一緒にやっていくというような、そういった選択肢も含めて考えておく必要があると思いますので、私はこの指導者問題よりは、既存の総合型クラブに、どういうプログラムや事業をやるべきかというアドバイスが今とても有益ではないかなと思います。

現在、総合型クラブが部活動の地域展開の受け皿として期待されていますけど、現実的には今、中学校の部活動でやっていることをそのまま引き受けられる総合型クラブはほとんどないと思います。そもそもやっていることが違うので。

そうすると、今後、地域展開をした部活動で、従来のような活動ができる子供たちはそれで良いですが、そこからこぼれ落ちてしまう子供たちが出てくることが予想されるので、その受け皿としての場が必要になってくると思います。

ですから、様々なスポーツが経験できる場、例えば、中学生スポーツスクールのように、年間を通して色々な活動をするような、そういったプログラムを各総合型が準備をして、こぼれ落ちてくる子供たちの受け皿として待っているということも1つの方法としてはあるかと思います。

これは、単独の総合型クラブでやるというのは中々難しいと思いますので、クラブ間の連携・ネットワークで、共有しながら、順番にまわしていくといった色々な方策が考えられると思うので、部活動の地域展開との絡みで、新しい中学生の運動の場というものを、複数のクラブが連携しながら作っていくということが今後重要になってくるのではないかと思います。

また、これは、中学生のウェルビーイングにも関係していると思います。今後の次期計画にも関係すると思い、発言させていただきました。

【議長】

意見も出尽くしたようですけども全体を通していかがですか。先ほど予算の話が出ましたけども、今回の予算で、どこを重点的にやったというのはありますか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

各課それぞれあるかと思いますが、生涯スポーツ振興課では、先ほど説明しました、パラスポーツの推進に向けて次なる1歩踏み出したいということで、新しい調査事業を計上させていただきましたので、その成果を踏まえて、今後さらにパラスポーツが発展するように取り組んでいきたいと考えております。

【岩埜競技スポーツ振興課長】

競技力向上推進本部の方につきましては、パラアスリートの強化支援のところ、それからオリンピックアスリート支援のところを少し増やしています。

あと、パラアスリートのところで、デフリンピックの部分についても少し強化支援をしていきたいと考えております。

【志村保健体育課長】

保健体育課は、言うまでもなく部活動の地域展開でございまして、今2年間、進めてきた訳ですけれども、課題がもうどんどん顕在化してきております。

これからどういうふうに進めていくのか、それから各市町村が少しでもやりやすい方法を我々支援していくというのが、一番力を入れなくてはいけないことだと考えております。

【議長】

それでは時間も大分経ちましたので、この会議を終了させていただきたいと思います。

本日は皆さん、様々な意見をいただきまして誠にありがとうございます。ぜひ皆さんに

も色んな意見を言っていただくという場でございますので、よろしくお願いいたします。
それでは以上をもちまして議長の任を解かせていただきます。進行について事務局にお返しいたします。

【事務局】

越川会長、長時間にわたり進行していただきまして、ありがとうございました。
また、委員の皆様方、貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。
本日いただきましたご意見等を踏まえまして、引き続き計画を推進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

以上をもちまして令和6年度第2回千葉県スポーツ推進審議会を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。